

15. えだまめ

・殺菌剤

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M3	キヒゲン	種子粉衣	は種前	1回	
1	ベンレート水和剤	散布	収穫30日前まで	3回以内	

・殺菌剤（参考農薬）

FRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
M3	キヒゲンR-2フロアブル	塗沫処理	は種前	1回	

・殺虫剤

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	スミチオン乳剤	散布	収穫21日前まで	4回以内	

・殺虫剤（参考農薬）

IRAC コード	薬剤名	使用方法	使用時期	使用回数	備考
1	スミチオン乳剤	散布	収穫21日前まで	4回以内	
3	トレボン乳剤	散布	収穫14日前まで	2回以内	
	トレボン粉剤DL	散布	収穫14日前まで	2回以内	

注1) 使用回数はその薬剤の使用回数を記載しており、この他に薬剤に含まれる成分毎に、総使用回数が決められているので、農薬ラベル等を確認してそれを超えないように注意する。

注2) 薬剤抵抗性の出現を防ぐため、「FRACコード」や「IRACコード」を参考にしながら他系統剤とのローテーション使用を心掛ける（「薬剤抵抗性管理」参照）。

注3) 蚕毒・魚毒については、「56. 野菜類の総括注意」も参照する。

病害虫名（F：菌類病、B：細菌病、V：ウイルス病、O：その他の病原体）

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
紫 斑 病 (F)	は 種 前	1. 無病種子を用いる。 2. キヒゲン 10g を乾燥種子 1 kg に粉衣する。 [参考農薬] 1. キヒゲンR-2フロアブル原液 20ml を乾燥種子 1 kg に塗沫処理する。	1. 収穫後は、発病残さを取り除く。 2. 結実期に雨が多いと多発する。 3. 薬剤は葉によく付着するように散布する。 4. キヒゲン、キヒゲンR-2は水産動物に対して影響が強いので注意する（特別指導事項参照）。 5. 薬剤耐性菌出現回避のため、同一薬剤を連用しない。
	開 花 終 期	1. ベンレート水和剤 2,000 倍液を散布する。	
黒 とう 病 (F)	生 育 全 期 間	1. 発病地では連作を避ける。 2. 常に発病株の早期発見に努め、発見次第抜き取り、焼却等適正に処分する。	1. 小豆、いんげんには発病しない。
モザイク病 萎 縮 病 (褐 斑 病) (V)	は 種 前 生 育 初 期	1. 抵抗性品種を利用する。 2. 無病種子を用いる。 3. 発病株を早期に抜き取る。 4. アブラムシ類の防除を徹底する。	
ダイズシスト センチュウ	は 種 前	1. 土壌線虫の項を参照する。	

病害虫名	防除時期	防 除 方 法	注 意 事 項
アブラムシ類	生育初期～ 子実肥大初期	1. スミチオン乳剤 1,000 倍液を 散布する。	
ダイズサヤ タマバエ	開 花 終 期 (着莢初期)	[参考農薬] 1. スミチオン乳剤、又はトレボン乳剤の 1,000 倍液を散布する。 2. トレボン粉剤DLを 10a に 4kg 散布する。	1. 落花して間もない若い莢に産卵する。また、被害はほ場周辺部に多い。 2. 薬剤が莢、茎に付着するように散布する。 3. トレボンは蚕毒及び魚毒に特に注意する(特別指導事項参照)。
カメムシ類	開 花 期 ～ 幼 莢 期	[参考農薬] 1. スミチオン乳剤 1,000 倍液を散布する。	